

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	法学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生の学習成果を測定するための基準・指数の開発に向けた検討を行う。	→学習成果測定の基準・指数の開発の状況	C	C	B	B	/
2. 学生が自身の学習成果を認識・測定できるような方法を検討する。	→学習成果の認識・測定方法の検討状況	C	C	C	C	/
3. 卒業生の就職先および卒業生の法学部に対する評価を教育にフィードバックする仕組みを検討する。	→就職先、卒業生に対する法学部教育に関するアンケートの実施	C	C	C	C	/
4. 学士学位の授与基準・手続について検討する。	→学士学位の授与基準・手続の検討状況	C	B	A	A	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2011年度においてIR事業を試行的に導入し、学生アンケートを実施した、これによって教育成果の検証が一部ながら可能となった。もっとも、データを経年的に比較対照して検証するには未だ至ってはいない。IRは今後も導入される運びとなるようであるため、今後継続してデータを蓄積することにより、検証が可能となろう。
目標2	授業調査において、学生がその授業において成果を得たかを問う項目を置いており、学生の自己評価はこの点に関する限りなされている。また、2011年度に試験的に導入されたIRを今後継続して導入することにより、検証の一助とはなるが、客観的な測定方法は未だ未整備である。
目標3	卒業生の就職先や卒業生から、学部教育がどのように評価されているかのアンケートは、資金的な問題もあり早急な制度構築は困難が伴うであろうが、キャリアセンターとも協力し、少しずつデータを収集する方途を考える必要があると思われる。
目標4	学生への学位授与方針を2011年度に策定し、法学部の履修心得、法学部ホームページ、および大学教務部ホームページに明示した。
備考	